

事例番号:350209

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第二部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

二絨毛膜二羊膜双胎の第2子

妊娠 30 週 0 日 血圧 146/94mmHg

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 30 週 3 日

19:15 腹部緊満感あり

20:00 腹部緊満および破水のため入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 30 週 3 日

20:15 顔面の冷汗、性器出血、意識レベル低下、腔鏡診で多量の凝血塊を認める、血圧 160/90mmHg

20:25- 当該児の波形かは不明だが胎児心拍数陣痛図で 60 拍/分の徐脈を認める

21:01 常位胎盤早期剥離の診断で帝王切開により第1子娩出、死産  
第2子娩出、骨盤位、多量の凝血塊あり

胎児付属物所見 血性羊水、胎盤病理組織学検査で常位  
胎盤早期剥離に矛盾しない所見

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:30 週 3 日

(2) 出生時体重:1100g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 6.69、BE -23.4mmol/L

(4) Apgarスコア:生後1分1点、生後5分7点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バッグ・マスク)、気管挿管

(6) 診断等:

出生当日 新生児仮死

(7) 頭部画像所見:

生後53日 頭部MRIで内包後脚背側部に通常認められる髄鞘化に伴う高信号が不明瞭であり、低酸素・虚血による影響が疑われる所見

## 6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医2名、小児科医2名、救急医1名、研修医1名

看護スタッフ:助産師3名、看護師3名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、常位胎盤早期剥離による胎児低酸素・酸血症であると考えられる。

(2) 妊娠高血圧症候群(妊娠高血圧)が常位胎盤早期剥離の関連因子である可能性がある。

(3) 常位胎盤早期剥離の発症時期は特定できないが、妊娠30週3日の19時15分頃またはその少し前の可能性があると考えられる。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価(2020年4月改定の表現を使用)

### 1) 妊娠経過

妊娠中の管理(妊娠30週0日の血圧が146/94mmHg、141/88mmHgのため、家庭血圧測定と140/90mmHg以上で連絡するよう指示したこと)は一般的である。

### 2) 分娩経過

(1) 妊娠30週3日の妊産婦からの電話連絡への対応(腹部緊満感の訴えに対し来院を指示したこと)は適確である。

(2) 入院時の対応(腔鏡診、超音波断層法による胎児心拍数と胎盤の確認)は一

一般的である。

- (3) 妊産婦の症状(腹部緊満感、多量の性器出血、意識レベル低下)より常位胎盤早期剥離と診断し、帝王切開を決定したことは適確である。
- (4) 帝王切開決定後に分娩監視装置を装着したことは一般的である。
- (5) 帝王切開決定から 46 分後に児を娩出したことは一般的である。
- (6) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (7) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

### 3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、気管挿管)は一般的である。

## 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

### 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

#### (1) 学会・職能団体に対して

常位胎盤早期剥離は、最近の周産期管理においても予知が極めて困難であるため、周産期死亡や妊産婦死亡に密接に関与する。常位胎盤早期剥離の発生機序の解明、予防法、早期診断に関する研究を推進することが望まれる。

#### (2) 国・地方自治体に対して

なし。